

高雄から嵐山

京都府山岳連盟トレイル委員会

市バス・JR バス榎ノ尾停留所で下車し、角の食堂前にある標識北山 88 を確認し、高雄神護寺方面への坂を降る。市バス高雄で下車した場合は、バス停前の料理旅館の手前の石段を降れば、神護寺登り口高雄橋畔（標識北山 90）へショートカットとなる。



この辺りの三尾（梅尾・榎尾・高雄）を流れる清滝川は、深い峡谷を刻んでおり川岸には平地がほとんど無いが、高山寺・西明寺・神護寺や市バス停留所は川岸よりはるかに高い平坦面にある。これはかつて川底であった平地が土地の隆起によって高くなり、川が侵食して川底を掘り下げたためである。お寺のある平坦面は「河岸段丘」と呼ばれる。



標識北山 88 から少し下ると、赤い欄干の橋が右手に見えるのが西明寺である、天長年間に神護寺の別院として開かれた寺院で、参道の入り口の朱塗りの「指月橋」を渡り、石段を登ると夏は新緑、秋は紅葉のトンネルである。



山門をくぐり正面のこじんまりとした本堂は、5代将軍徳川綱吉公の生母桂昌院の寄進により、元禄年間に再建されたものである。運慶によって彫られた本尊の釈迦如来像立像は、高さ五十センチメートルに満たないが脇の千手観音像とともに重要文化財に指定されている。

西明寺の裏山一帯には、近年になって自然とコバナミツバツツジが繁茂し、4月中旬頃に紅紫色も鮮やかに斜面一面に咲き誇り、高雄バス停付近からは正面に素晴らしい景色を見せてくれる。

標識北山 89 の谷山林道の橋を右手に過ぎ、トレイルコースが朱塗りの高雄橋を渡ると、正面に標識北山 90 があり、高雄観光ホテルの裏手から神護寺参道の石段が登っている。神護寺は高野山真言宗別格本山で、高雄山の中腹標高二百メートル付近に位置する山岳寺院である。

弘法大師空海が住居し、伝教大師最澄が当寺で講義するなど、日本仏教史に重要な位置を占める寺院で、古くは宝亀十一年（824 年）に和気清麻呂が私寺として建立した神願寺を発祥とするが、以前から当地にあった高雄山寺と合して天長元年（824 年）に神護寺として創立されたという久遠の歴史を持つ。

広い境内には多くの国宝、重要文化財の建物や仏像が安置されている。書画も多く所蔵され、国宝の伝平重盛、伝源頼朝、伝藤原光能の画像はつとに有名で、ミロのヴィーナスと交換でフランスに貸し出されたこともある。毎年五月のゴールデンウィークには、これらの書画が虫干しのため一般に公開される。多くの国宝中の国宝が目の前で拝観できるこんなチャンスはまず無い。



発電所取水堰堤



菖蒲谷への分岐



清滝川の溪谷



標識北山 93 梨木谷林道分



標識北山 94 の金鈴橋



愛宕山表参道登山口

昭和六十三年、二順目第一回の京都国体では、この神護寺境内を国体山岳競技部門（踏査競技）のスタート、ゴール地点として使用させて頂けた。国体開催会場としてはまさに空前絶後の出来事で、京都国体ならではの特筆すべき出来事であった。神護寺先代住職のご理解のたまものである。

神護寺参道から高雄観光ホテルの前を進むと公衆トイレがあり、舗装道路が途切れると、関西電力清滝発電所の取水堰堤で、堰堤の下流の清滝橋の袂に京都一周トレイルコースの案内板がある。

清滝橋を渡り発電所の水路を時々左上に見て林道を進む。この辺り神護寺の「かわらけ投げ」の皿の残骸を見かける。林道が終点となり、北山杉の美林の間を進むと標識北山 91 で、西山ドライブウェイを越え嵯峨菖蒲谷への分岐である。

清滝川を潜没橋（通称小泉橋）で対岸に渡ると、春には桜が美しい広場に出る。絶好の休憩場所で、古びた鉄骨の小屋組の残骸はいささか無粋であるが昔の茶屋跡である。やがてトレイルコースは清滝川に沿って川筋を行くようになるが、雨天の場合などは滑りやすく、落石にも十分注意しよう。

堂承川の木橋を渡ると登りとなり、標識北山 92 で左へ折り返すと、標識北山 93 梨木谷林道分岐で、京都一周トレイルコースの案内板がある。

標識北山 93 の分岐を右に行けば、空也の滝入り口から月の輪寺を経て愛宕山。上流で梨木谷となる堂承川本流を遡れば首なし地蔵に至る。現在、梨木谷上流コースは荒れているので注意しよう。

標識北山 93 から林道を右に梨木谷方面に少し行けば、水量の多い湧水がある。トレイルコースは舗装された林道を清滝川沿いに下る。林道は狭く高い崖の上であり、落石と時折すれ違う車との離合には十分気をつけよう。まもなく標識北山 94 の愛宕山表参道登山口の金鈴橋である。

愛宕山、改めて紹介するまでもなく、京都を取り巻く山々の中で、京都西北部に比叡山と対座する代表的な山である。標高 928 m。山頂に鎮座する愛宕神社は、阿多古神社の名で「延喜式」にも記載され、開山は大宝年間（701～704）に役小角が泰澄を伴い愛宕山に上り、朝廷の許しを得て開闢されたという。祭神は火の

神である迦具槌命で、「お伊勢に七度、熊野に三度、愛宕さんには月参り」と、古くから火伏せの神として全国的に広く人々の崇拝を受けている。

毎年七月三十一日は千日参りともいわれ、この日に参ると千日お参りしたと同じ功德を受けるといい、「お登りやす」「お下りやす」の挨拶を交わしながら夜中まで多くの参詣者で賑わう。

天正十年(1582年)明智光秀が本能寺に織田信長を討つ前に、愛宕神社で開かれた連歌の会で「時は今 あめが下しる 五月哉」と詠み、決意を漏らしていたという伝承は有名。

表参道からは標識西山 94 から約 2 時間 30 分。標識西山 93 からは月輪寺を経て 3 時間程度で登頂できる。頂上の愛宕神社境内には三角点はなく、愛宕神社本殿への石段の下から、林道を北に回り込んだ先の、愛宕神社本殿とは異なるピーク(889.8m)である。

愛宕山表参道入口左手の空き地は、過年の温泉掘削ブームに乗って温泉が掘削されたが、排水による清滝川水質汚染の懸念があり、営業の許可が下りず放置されたと聞く、蛍の生息地保護のためには止むを得ないことかも知れないが、大変な無駄使いだ。

標識北山 94 の上の広場は、戦時中に鉄材供出の犠牲になった旧愛宕山ケーブルの山麓駅跡で、標識北山 94 から右に回り込んで右に鳥居を潜る道が愛宕山表参道登山口である。

標識北山 94 から金鈴橋を渡り、公衆便所前の舗装路を登れば清滝バス停に至る。清滝から阪急嵐山への最終バスは 18:20。日中も 1 時間に 1 本程度なので留意したい。

継続してトレイル西山コースを行くには、愛宕登山口を左折して進み、赤い欄干の渡猿橋を渡れば橋脇に標識西山 1 がある。清滝で標識は北山から西山に変わる。標識西山 1 からも急坂の舗装路を登れば清滝バス停に至る。トレイルコースは標識から河川敷遊歩道の石段を降りる。

また、標識北山 94 から金鈴橋を渡って、橋脇の石段を河川敷遊歩道に降り、渡猿橋の下を潜ると標識西山 1 からの石段と合流する近道である。



渡猿橋から降りると、すぐに『ほととぎす 嵯峨へは一里 京へ三里 水の清滝 夜の明けやすき』の与謝野晶子の句碑がある。もとは対岸の岩壁に彫ってあったが、風雨で読めなくなり、近年に句碑に建て替えられた。この辺り路面が濡れている時は滑り易いので特に注意。



次いで細い鉄橋の蛍橋を清滝川右岸に渡る。清滝は源氏蛍の生息地として天然記念物に指定されている。近年は蛍の乱舞までは覚束無いが、だんだん増えてきているのは喜ばしいことだ。蛍橋を渡った先端が標識西山 2 で、階段を下りると清滝川沿いに行くが取り付きの小さい岩場は足場に要注意。

コースは樹林の中の歩き易い道となるが、やがて岩場の道となり固定ロープが設置してある場所もある。愛宕山表参道六合目付近に突き上げる明神谷標識西山 3 の橋を渡り、なおも川岸の岩盤のルートが続く。

やがてしっかりした護岸上のコンクリートの道になると、川幅も広がり明るい小さな広場に着く、米買道分岐の標識西山 4 である。





落合橋と落合トンネル



標識西山 5-1 落合分岐



保津峡の景観



保津峡の景観



保津峡の岩場



保津峡の景観

米買道は水尾の長坂谷から荒神峠を越えて清滝川に降る道で、JR 保津峡駅付近からの愛宕山登山路のツツジ尾根と荒神峠で交差する。

古くからの文献で住友山岳会編「近畿の山と谷」や、森本次男先生の著書にも米買道の名は挙げられており、昔から我々も米買道と呼んでいるが、誰が何処へ米を買いに通った道か不思議な道である。

元国立民族博物館館長の梅棹忠夫先生は著書「山城三十山」で、清滝の住人が亀岡に米を買いに通った道と位置付けられている。明智光秀も本能寺へ攻め込むときに、当時は保津川本流沿いには大軍が通過できる道は無かったと思われるので、明智越えから米買道のルートをとったのではとも述べておられる。

現在、米買道は先年の台風で路盤が崩落、倒木も多くて通行不能であり、このまま歴史からひっそりと消えていく運命にあるかもしれない。標識西山 4 米買道分岐から、コンクリートの沈潜橋を左岸に渡り落合橋の標識西山 5-1 に着く。落合は保津川と清滝川の合流点である。

清滝川が保津川に合流する落合では、水量が多く侵食力が強い保津川と比べると、水量が少なく侵食力が弱い清滝川は合流の際に川底に段差が出来ている。これが「不協和的合流」と呼ばれ、もっと差が大きいと合流点に滝が出来ることがある。

保津川は亀岡から嵐山までの間、愛宕山からポンポン山に連なる山地を激しく屈曲しながら流れている。「穿入蛇行（せんにようだこう）」と呼ばれるこのような流れは、山地が今のようになる以前に平地を自由に屈曲して流れていた川が、しだいに隆起する山地を掘り下げてためと考えられている。この保津川とトンネルと鉄橋で交差し、峡谷を眺めながら旧 JR 山陰本線を走るトロッコ列車は全国的に人気が高い。

標識西山 5-1 から赤い欄干で装った落合橋を渡り、トンネルを抜けて標識西山 5-2 で舗装道路を直進すると、トロッコ保津峡駅から JR 嵯峨野線保津峡駅分岐を経て水尾の里に至る。標識西山 5-2 を左折して岩場の上に出ると保津峡の絶景が待っている。

滔々と流れる保津川畔にはチャートの絶壁「書物岩」が聳え、足元の断崖は時代劇の撮影にも良く使われる名所で絶好の休憩場所である。足場は悪いがそのまま進めば河原まで降りられる。帰路は往路を引き返すか、注意して辿れば本流に沿って西山 5-2 へ登る踏跡もある。不用意に岩場には登らないこと。



標識西山 7 の嵯峨陵登拝所



標識 8 嵯峨鳥居本



愛宕寺



愛宕街道の町並



町並保存館



化野念仏寺入口

トレイルコースは標識西山 5-1 まで戻り、落合橋から六丁峠の登りに掛かる。六丁の名と異なり実際は十丁程もある。舗装道路の登りであるが頑張ろう。高度を稼ぐにつれ振り返ると、保津峡の素晴らしい景色が元気付けてくれる。西山ドライブウエーの道路橋が見えれば六丁峠頂上で標識西山 6 である。

六丁峠は以前「下六丁峠」と呼んでいたが、いつの頃からか六丁峠となっている。ちなみに上六丁峠もありそうだが古書にも記述は見つからない。

標識西山 6 から山道を直進すると、西山ドライブウエーに沿って、小倉山から嵐山公園亀山地区へ抜けることが出来るが、途中で溪谷に降りるルートが分岐し、迷いやすく危険な場所があるので注意が必要である。

六丁峠の下りは舗装されているものの、狭小で樹木が生い茂り薄暗い道だ。自動車の通行が案外多いので気を付けよう。

途中の急なカーブが標識西山 7 で、嵯峨天皇皇后の橘嘉智子(壇林皇后)嵯峨陵登拝路分岐である。現在は参拝路が荒れており通行止めとなっている。

トレイルコースは、なお暗い道に続くが、家並が見え明るい三叉路に突き当たると、標識西山 8 の鳥居本である。有名な鮎料理の平野屋が左手鳥居の脇にあり、重厚な藁屋根が歴史を感じさせる。

標識西山 8 を左に約十分も行けば愛宕寺で時間があれば寄ってみよう。寄進者自らが彫刻した、たくさんの羅漢像が木陰に安置され独特の光景を見せている。身近な人の面影を感じる羅漢さんがいることもある。愛くるしい観音様や地藏様の扇子や掛け軸絵が土産に販売されている。

標識西山 8 を右折し石畳の舗装のやや下りの道を行くと、西山ドライブウエーのガードの先に「鳥居本町並み保存館」がある。古い民家を整備し民具等を展示してあり、入場無料でトイレも拝借できる。

化野念仏寺千灯供養と合わせ、ここ鳥居本の愛宕道も「愛宕道灯し」が行われ、ほのかなろうそくの明かりが石畳の街道を照らし幽玄の佇まいをかもしだす。

「鳥居本町並み保存館」を過ぎれば右手が化野念仏寺である。化野念仏寺（あだしのねんぶつじ）は浄土宗の寺で、化野は東山の鳥辺野と並ぶ平安京以来の風送の地である。



境内の約八千体という夥しい数の石仏・石塔は明治三十六年頃に、化野に散在していた多くの無縁仏を掘り出して集めたもので、毎年の地蔵盆、八月二十三日・二十四日に行われる千灯供養は幽玄な夏の風物詩である。近辺の土産物屋の中庭にも奥嵯峨の風情が感じられる。



標識西山 9 の地蔵の辻は右の道に行く。直進すれば清滝道を横断し、大覚寺から広沢池方面に至る。石畳舗装の風情ある嵯峨野路を愛でながらしばらく歩くと、T字路となり寺名が刻まれた石柱が建つ、右に行けば壇林寺門跡、祇王寺、滝口寺でトレイルコースは左折する。



壇林寺は、平安時代初期の承和年間(834年～848年)に嵯峨天皇の皇后、橘嘉智子(壇林皇后)が建立した尼寺で皇后没後に官寺とされた。創建の際、唐の義空和尚を師として日本最初の禅門寺となった。壇林寺門前には、禅の発祥遺跡を表す「山城国一ノ寺壇林寺」と刻まれた大きな石標が建っている。しかし、平安時代中期には早くも荒廃してしまい、往時を偲んで昭和三十九年(1964年)、現在地に再建された新しい寺である。



祇王寺(ぎおうじ)は大覚寺の塔頭で往生院と呼ばれていたが、後に祇王寺と言うようになった。中世以降は衰退したが、明治二十八年に京都府知事が別荘を寄進して再興されたものである。寺の名は、平家物語に登場する祇王に由来する。祇王は平清盛に寵愛を受ける白拍子であったが、仏御前と呼ばれる白拍子の登場によりその地位を奪われる。祇王と母(刀自)と妹(祇女)の三人は、共に出家しこの地に移り住んだ。後に仏御前も加わり四人で余生を送ったと

伝えられる。若葉や紅葉の頃の境内は素晴らしい。

民家の整った庭の角にある標識西山 10 を右に行き、突き当たれば標識西山 11 の先が二尊院である。正式には「小倉山二尊教院華台寺」と云い、本尊の「発遣の釈迦」と「来迎の阿弥陀」の二如来像を祀るところから通称二尊院という。

総門を入った「紅葉の馬場」と呼ばれる参道は紅葉の名所として知られ、小倉山を背にした奥庭には藤原定家の時雨亭跡とされる場所がある。

寺は平安時代(834年 - 847年)嵯峨天皇の勅により円仁(慈覚大師)が建立したと伝えるが、応仁の乱により堂塔伽藍は全焼したが、本堂と唐門は永正十八年(1521年)に再建され今に伝えている。境内の墓地には二条家、三条家、四条家、三条西家、鷹司家等の公家のほか、角倉了以、三条実美、伊藤仁斎、阪東妻三郎等の墓があり、先の角倉太郎京都府山岳連盟名誉会長もここに眠る。



敬神の森



向井去来の墓碑



落柿舎の芭蕉



落柿舎



標識西山 13 常寂光寺



標識西山 14 御髪神社

標識西山 11 を左に 10 分も直進すれば、清涼寺（嵯峨釈迦堂）である。元々この地にあった源融の山莊棲霞観（せいかかん）が寺となって棲霞寺と称したが、永延元年（987 年）に奄然（ちょうねん）上人とその弟子盛算により、愛宕山を中国の五台山に模して大清凉寺を建立しようとし、棲霞寺内の釈迦堂をもって清涼寺としたのが起こりである。現在の本堂は徳川五代将軍綱吉、その母桂昌院、大阪の泉屋（後の住友）吉左衛門らにより再建されたもので、本堂内には本尊釈迦如来立像（国宝）及び地藏菩薩立像（重要文化財）が安置され、兜跋（とばつ）毘沙門天立像等の重要文化財を多く有する名刹である。境内には、源融、嵯峨天皇、壇林皇后の墓などがあり、遊女夕霧太夫の墓もある。毎年 3 月 15 日に三本の大松明を早稲、中稲、晩稲に見立て、燃え方でその年の豊凶作を占う火祭りは圧巻である。

標識西山 11 の二尊院から道は細くなるが、左手は近年に整備された敬神の森、周遊できる小公園で百人一首が自然石に刻まれている。右手の瀟洒な観光トイレの前は格好の休憩場所である。

その先が落柿舎の裏手となり、松尾芭蕉門下の向井去来の眠る墓地がある。木陰にひっそりと小さな墓標があり、高浜虚子の歌「凡そ天下に去来ほどの小さき墓に詣でけり」が雰囲気良く表している。去来は後に「西国三十三ヶ国の俳諧奉行」と西日本の蕉門を束ねた実力者との評価が高いが、後世には温厚篤実という人柄を伝え、小さな墓標にもその人柄が偲ばれる。

落柿舎、去来が閑居した跡と伝える。落柿舎の名は、商人が庭に実った柿を買うことになり、代金を置いて帰ったが、その夜の嵐で柿の実が全て落ちてしまったことから生まれたと伝える。「柿ぬしや木ずゑは近きあらしやま」。

現在の建物は明治の再建であるが、小さな門を入った正面の壁には、主人の在宅を知らせると云う蓑と笠が掛けられており当時の雰囲気を良く再現している。

落柿舎の前に広がる畑は小豆を栽培しており、「小倉餡発祥の地」のこま札が建っている。標識西山 12 の角を右折した正面が常寂光寺で標識西山 13 である。

日蓮宗の寺で、慶長元年（1596 年）本圀寺の日禪（にっしん）上人が隠棲して開創した寺で、寺域が『百人一首』で知られる小倉山の裾野に位置し、幽雅閑寂で日蓮宗教義にいう常寂光土の観があることから、常寂光寺の寺名がつけられたと伝える。

角倉家が土地を寄進し、小早川秀秋らが堂塔の建立に寄与したと伝え、仁王門は南北朝時代の葺葺き門を本圀寺から移築したという。



標識西山 14 トロッコ嵐山



大河内山荘入口



標識西山 15 野宮神社分岐



野宮神社



天竜寺東参道



嵐電嵐山駅

伏見城客殿を移築した本堂、特に並尊閣（へいそんかく）とも呼ぶ重文の多宝塔は、小倉山山麓に均整のある美しい姿を際立たせている。

京都でも名だたる紅葉の名所で、京都市内の良い展望が得られる。晩秋にコケに覆われた石段に紅葉が散りかかる風情は、まさに「百人一首」の世界である。

常寂光寺から、しばらく進むと右手に一面の蓮で覆われた池が現れる。対岸の赤い幟がはためく小社が御髪神社。日本で唯一、髪結いの祖とされる藤原采女亮政之を奉っている神社で、「みなさま、もっと美しくなりませんか、もっと心豊かになりませんか。髪は人間の最上部に位置し御神（おんかみ）より賜った美しい自然の冠です」と唱っている。池の南端の神社参道入口に標識西山 14 がある。

御髪神社参道入口の向いがトロッコ列車嵐山駅である。駅の右手の坂を登ると、JR 嵯峨野線の線路を眼下に眺める竹林の道となり、標識西山 15 の三叉路の右手が大河内山荘である。

懐かしい時代劇の大スター大河内傳次郎(1898 年～1962 年)が、映画出演料のほとんどを注ぎ込み、三十年有余の歳月をかけて造った敷地二万坪有余の山荘で、小倉山南麓に位置し、新緑、紅葉、積雪の日と四季を通じ、いつ訪れても至福の時間を得ることができる。国の登録文化財に指定されている。

トレイルコースは標識西山 15 で野宮神社（ののみやじんじゃ）天竜寺コースが別れる。三叉路から竹林の中の道を下ると世界遺産天竜寺の北門である。その先の三叉路を左折すると野宮神社で祭神は野宮大神（天照皇大神）。伊勢神宮に奉仕する斎王が伊勢に向かう前に、潔斎をした「野宮」に由来する神社と伝えられている。

毎年十月の例祭における「斎王行列」がその様子を再現している。鳥居は樹皮がついたままの「黒木の鳥居」で古代の鳥居の形式を伝えている。境内の苔を用いた美しい庭園の「野宮じゅうたん苔」は有名で、源氏物語「賢木」の巻にも書かれ、謡曲「野宮」の舞台でもあり、縁結びの神として若い女性に圧倒的な人気の神社である。

天竜寺は檀林皇后が開創された禅寺の檀林寺の跡地で、檀林寺が廃絶した跡を後の後嵯峨上皇さらに龜山上皇が仮の御所とされ、南北時代に到り足利尊氏が後醍醐天皇の菩提を弔うため、夢想国師を開山として 1339 年に開かれたもので、造営費用に苦心し元寇依頼途絶えていた元との貿易を「天竜寺船」を以って再行、造営費用の調達に成功し 1345 年に落慶した。俗に南禅寺を五山の上とし天竜寺を五山の一と位置づけている。



西山 16 嵐山公園亀山地区



嵐山公園展望台の景観



角倉了以の碑



周恩来 雨中嵐山の碑



嵐山山麓保津川



嵯峨嵐山文華館

平成9年（1997）に日本画家加山又造画伯によって直接墨色で書かれた、法堂（はっとう）天井の直径が9mの「八方睨みの竜」は実に圧巻である。

観光客でにぎやかな野宮神社への三叉路の道を右折すると、京福電車（嵐電）嵐山駅へ至り、その前が天竜寺東参道である。さらに進むと渡月橋北畔標識西山 21 で小倉山コースと合流する。このコースは途中に案内標識は設けていない。

小倉山コースは大河内山荘前の標識西山 15 のある三叉路を直進する。すぐに小倉山中腹に展開する嵐山公園亀山地区の入口で標識西山 16 がある。

標識西山 16 の先の石畳の道を右折し、しばらく登ると三叉路が標識西山 17 で、右に行けば展望台となり四季折々の素晴らしい展望が得られる。眼下の保津峡を隔て対岸の山の中腹には千光寺が望める。千光寺は、角倉了以が大堰川浚渫（おおいがわしゅんせつ）工事で亡くなった人々を弔うために建立した寺である。境内の大悲閣から眺める保津峡を隔てた小倉山の眺望も素晴らしい。

標識西山 17 を降れば、標識西山 18 から標識西山 19 に至る。このあたりは遊歩道が縦横にあり判りにくいだが、いずれの道をたどっても標識西山 19 あるいは標識西山 20 に合流する。

なお、小倉山山麓の（嵐山公園亀山地区）には角倉了以像、幕末の勤王家で西郷隆盛らの運動を助けた津崎村岡局の像、亀山天皇・後伏見天皇・後嵯峨天皇火葬陵等見るべきものも多く、時間があれば現地の案内表示板を参考に訪ねられることをお勧めする。

中国の周恩来がかつて京都に留学した折の記念碑は標識西山 19 の先にあり、標識西山 19 から石段を降れば大堰川河畔の遊歩道標識西山 20 で左折すれば嵐山渡月橋に至る。

取っておきの情報を提供しよう。標識西山 20 の河畔の遊歩道を右の上流に少し辿ると小さな階段と栈橋がある。ここに小さな赤旗があればこれを振ると良い。しばらくすると上流から渡し舟がやってきて、対岸の千光寺の下まで渡し賃 500 円程で渡してくれる。但し、冬季十二月～三月と夏の鵜飼の期間七月～九月は欠航となる。うまく運行期間にあえば僥倖で、ハイキングに来て渡し舟に乗り、平安京貴族の川遊びの気分が味わえる。京都一周トレイルだけの楽しみである。

渡し舟で対岸に渡り、千光寺を訪ねた後は千光寺裏門から上部へ伸びる古い踏跡を登ると、整備はされていないが嵐山城址に至る。標識類は無く踏跡も所々途切れるので迷いやすく、岩田山モンキーパークの離れサルが集団で脅しをかける事があるので特に注意が必要である。



宝蔵院前 羅漢像



マイクロ水力発電設備



標識西山 21 渡月橋



嵐山渡月橋



嵐山公園のトレイル標識



中之島太鼓橋の大堰川

嵐山城址から南側の良く踏まれ尾根路に降り、左へ向かえば標識西山 33 でトレイルコースに合流する。嵐山城址への登りが不安なら再度、渡し舟を利用し往復するのが良い。もしくは保津川右岸の道を渡月橋まで歩けば、標識西山 22 でトレイルコースに合流する。

運行期間等の問合せは（嵐山通船 075-861-0302）

標識西山 20 からのトレイルコースは左岸の道を渡月橋に向かうが、途中時間が許せば、リニューアルされた百人一首ミュージアム「嵯峨嵐山文華館」で、百人一首の世界をバーチャル体験してみよう。しばし、平安王朝の雰囲気になれる。

借景式彼山水庭園「獅子吼」の庭で有名な紅葉が美しい天竜寺塔頭宝蔵院、宝蔵院の前のリアルな羅漢群像にも立ち寄って見たい。その道の奥が天竜寺である。

天竜寺は京福電車（嵐電）嵐山駅の前が本道であるが、この道からも入れる。天龍寺は臨済宗天龍寺派大本山の寺院。寺号は詳しくは天龍資聖禅寺（てんりゅうしせいぜんじ）と称する。開基（創立者）は足利尊氏、開山（初代住職）は夢窓疎石である。足利将軍家と後醍醐天皇ゆかりの禅寺として壮大な規模と高い格式を誇り、京都五山の第一位とされてきた。「古都京都の文化財」の一部として世界遺産に登録されている。天龍寺の西方にある小倉山は、山の姿が亀の甲に似ていることから「亀山」ともいい、これにちなみ天龍寺の山号を「靈亀山」という。

川幅いっぱいの長い堰は、古代豪族の秦氏が長岡京付近までの灌漑用として構築した「葛野大堰」が基と伝承され、近世の角倉了以による保津峡改修後は高瀬舟の通航が可能になり、また筏（いかだ）による木材搬出がいつそう盛んになった。京北町あたりから材木をいかだに組み、保津川を利用して延々ここまで下り、千本三条に近年まで多くあった材木問屋に送るための運河、西高瀬川も分流している。梅津の地名はその頃の物資の集積地のなごり。

風光明媚な堰の上流部は、平安時代から公家等の遊興地として栄え現代に至っている。

原典により川の名は諸説ある。亀岡盆地出口より上流を大堰川としている原典も多いが、亀岡で保津川となり渡月橋上流の堰で大堰川に名を変え、大堰川は堰から渡月橋までで渡月橋以降は桂川となり、はるか下流の八幡の三川合流地点で淀川となる説を紹介する。

堰から西高瀬川に分流する脇に、何やら不思議な設備がある。これが先年に新しく設置されたマイクロ水力発電設備で、十数キロWの小さな水力発電所であるが、CO₂発生はゼロで地球温暖化



嵐山温泉風風の湯



標識西山 24 阪急嵐山駅



阪急嵐山駅

防止のために頑張っている。発電した電力は渡月橋のライトアップにも使われ、昼間の余った電力は電力会社が購入している。

標識西山 21 は渡月橋北畔角に東海自然歩道標識と共架で、大勢の観光客に混ざり渡月橋を中之島に渡ると、標識西山 22 もバス停の横の東海自然歩道標識に共架している。嵐山は古来より景勝の地と知られ、平安時代は盛んに貴族の船遊びが行われたというが、今でも名残を遺し春秋の「三船祭」に船上で雅楽舞等が行われる。

標識西山 22 をトレイルコースから少し外れ、直進して小橋を渡りホテル前を右折すると、保津川右岸を千光寺へたどる道であり、しばらく行くと左上に見える神社が嵐山弁天社。奈良時代大宝年間から当地に鎮座されている名社である。平安時代から新しく鑄られた銭は必ず当社に奉納されたという。来福徳財宝の神として人々の尊崇が厚く、また河海の女神であるところから火難の守護神ともされている。隠れた名社で時間があればここにも是非寄って見たい。

標識西山 22 から茶店や料理店が立ち並ぶ中之島を縦断すると、標識西山 23 はトイレの前の掲示板に共架されている。中之島から太鼓橋を渡れば、この辺り春は桜のトンネルであり花見客で大混雑となる。太鼓橋の下の堰（ここまで大堰川という説あり）ではサギが小魚をねらってじっと立つ姿を良く見る。

太鼓橋の先に 2014 年に新しく湧出した日帰り温泉「風風の湯」がある。嵐山のさわやかな風を身近に感じ、露天風呂で汗を流すのもトレイルの後の楽しみである。阪急嵐山駅前ロータリーも新装され、京都一周トレイル標識西山 24 も新しくなった。

「所要時間参考」

槇ノ尾バス停西山 88 (30 分← →30 分) 潜没橋西山 91 (15 分← →15 分) 梨の木林道分岐西山 93 (10 分← →10 分) 西山 94 清滝金鈴橋 (5 分← →5 分) 西山 1 清滝猿渡橋 (30 分← →30 分) 落合橋西山 5-1 (5 分← →5 分) 西山 5-2 「保津峡展望 清滝川と保津川合流点分岐」 落合橋西山 5-1 (15 分← →20 分) 六丁峠西山 6 (15 分← →10 分) 鳥居本西山 8 (25 分← →25 分) トロッコ嵐山駅西山 14 (5 分← →5 分) 大河内山荘前 標識西山 15 (25 分← →20 分) 渡月橋 (10 分← →10 分) 阪急嵐山駅西山 24 大河内山荘前 標識西山 15 (25 分← →20 分) 嵐電嵐山駅 (5 分← →5 分) 渡月橋

《槇ノ尾バス停西山 88 (3 時間 20 分← →3 時間 10 分) 阪急嵐山駅西山 24 (11.1 km)》

高雄～嵐山間のトレイルコース詳細は「京都一周トレイル 北山西、西山」地図を参照。

地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは
京都市産業観光局 観光 MICE 推進室 (TEL075-746-2255)

kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/ 京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください